

## なくならない核の脅威

広島と長崎の上空に

人類史上初めて原子爆弾が投下されてから

今年で 80 年。

無差別に罪もない

多くの一般市民の命と生活を奪い、

生涯にわたって心身を痛め続ける

非人道的な核兵器の危険性や脅威は、

世界中で認識されているにも関わらず、

現在もおよそ 12,340 発あまりの

核兵器が地球上に存在します。

核兵器保有国は、**核兵器不拡散条約 (NPT)** 上、核兵器の保有を認められているアメリカ、ロシア、イギリス、フランス、中国などの 9 か国です。

核弾頭の総数は冷戦後一貫して減少傾向にあります。しかし、実際には核兵器の**現役配備数**は増加しており、いつでも使える状態の核弾頭はおよそ 9,600 発と推定されています。

さらに、軍用任務から退役し、解体を前提に保管されている核弾頭については、**再利用の可能性**が完全には否定できない状況です。

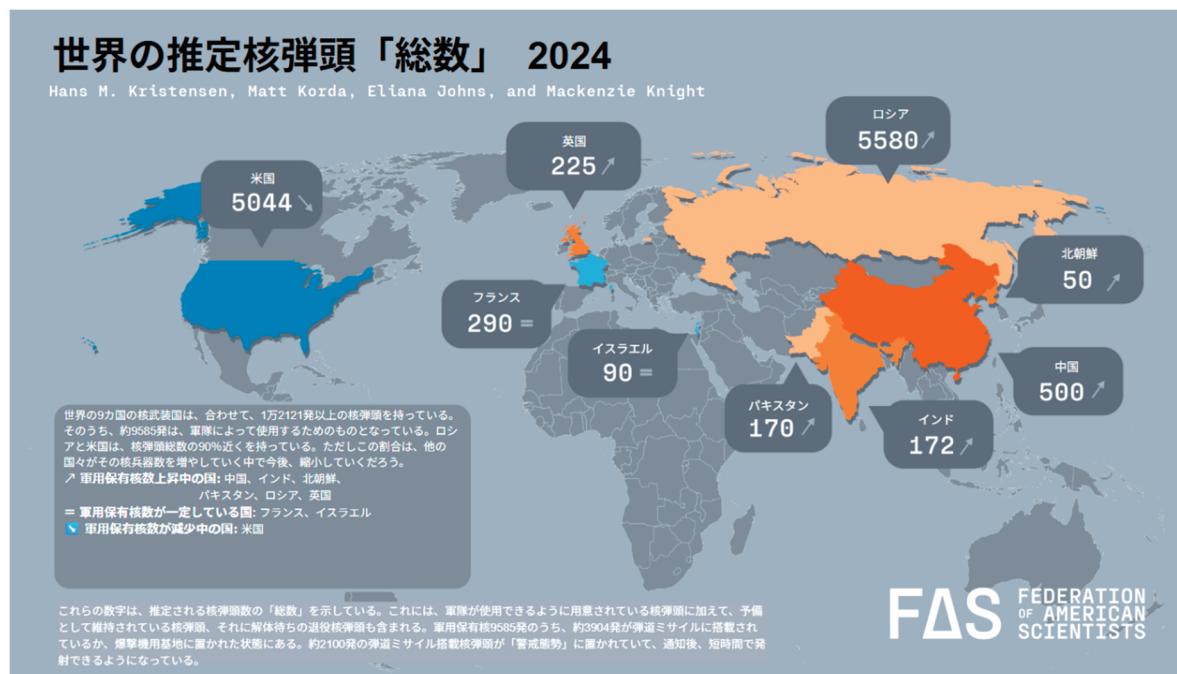


## 高まる世界の緊張

1994 年、「ブダペスト覚書」により核兵器を放棄したウクライナは、2022 年からのロシアによる**軍事侵攻**に直面しました。これは**核不拡散条約 (NPT)** 体制の信頼性を大きく損なうものであり、「核を手放すべきではなかった」とする声がウクライナ国内で上がるなど、**核抑止論**の再浮上につながっています。

また、2024 年 5 月 14 日、米エネルギー省の国家核安全保障局 (NNSA) は、ネバダ核実験場で未臨界核実験を実施し、これにより広島の**地球平和監視時計**はリセットされました。こうした核開発の継続は、国際的な軍縮の流れに逆行するものです。

2025 年 1 月、**終末時計**が昨年より 1 秒進み、残り 89 秒という 1947 年の終末時計公表以来、残り時間が最も短くなりました。



## 核のない世界をめざして

ウクライナ戦争は、**非人道的大惨事**であり、ロシアによる核兵器使用の脅威は、核兵器が存在する限り、それは使用可能であり、人類の生存に最大の危機をもたらすものであることを改めて浮き彫りにし、核兵器の存在そのものが世界の安全に対する脅威であることを国際社会に痛感させました。2017年に採択された**核兵器禁止条約（TPNW）**は、2025年6月現在で**94の国と地域が署名、73の国と地域が批准**しています。

今こそ、「核兵器は市民を傷つけるものであり、**その存在意義はない**」との認識を共有し、世界全体がその**廃絶**に向けて協調すべき時です。人類が核兵器によって人質にされている世界に代わる世界、**核兵器のない国際安全保障**への扉を開かなくてはなりません。



## 私たちの取り組み

私たち連合は、**核兵器廃絶による世界の恒久平和の実現**をめざし、毎年8月に広島・長崎で実施している**平和行動**をはじめ、原水禁、KAKKINと連携し、2026年に開催予定のNPT（核兵器不拡散条約）再検討会議に向けて、「**核兵器廃絶1000万署名**」などに取り組んでいます。

高校生平和大使や高校生一万人署名活動のメンバーとともに**核兵器廃絶を求める署名**を集めています。高校生平和大使は2018年からノーベル平和賞の候補にも推薦されており、国連で「**ヒロシマ・ナガサキ・ピース・メッセンジャー**」として認知されています。

被団協（日本原水爆被害者団体協議会）の長年の活動は、核兵器の非人道性を訴える上で国際的にも高く評価され、**2024年ノーベル平和賞**を受賞しました。私たちは、被団協が伝える**被爆の実相**と、**核廃絶**にかける思いを次世代につないでいく責任があります。

## 連合神奈川ピースウィーク 2025

私たち連合神奈川は

8月6日(広島への原爆投下の日)と、  
8月9日(長崎への原爆投下の日)を  
軸としたゾーンを「**ピースウィーク**」として、  
県内すべての首長が加盟している  
**「平和首長会議（国連登録NGO）」**が提唱する

## 持続可能な世界に向けた 平和的な変革のためのビジョン

—都市による軍縮と人類共通の  
安全保障に向けた平和構築—

を支持し 県内各地で街頭行動を行っています。

## 連合神奈川ピースウィーク 2025

横浜地域連合

川崎地域連合

三浦半島地域連合

湘南地域連合

県中央地域連合

西湘地域連合

相模原地域連合

厚木愛甲地域連合

小田原・足柄地域連合



連合神奈川ピースウィーク 2025

詳しい内容はこちら→